令和元年度
福島市小学校外国語教育指導資料

ブラッシュアップ
外国語指導



福島市教育委員会

は　じ　め　に

本資料は，小学校外国語教育推進事業の一貫として，令和２年度からの小学校学習指導要領の全面実施に向けて，主に，これまで外国語活動の指導に関わることが少なかった先生方に対して，指導方法や指導事例をわかりやすく紹介し，これからの小学校外国語教育の充実を図ることを目的に作成しました。

本指導資料は，指導上大切にしたいポイントについて新たに５つを焦点化して掲載するとともに，実際に使用している教材「Let’s Try!」「We Can!」の中から，学年ごとの実践事例を紹介しています。さらに，令和２年度から，本市独自に小学校１・２年生における外国語活動が行われることから，１・２年生での実践事例を掲載いたしました。

今年度，実際に新教材を使って授業を行ってみて，新たな疑問や悩みをもった先生や指導方法に不安を感じている先生方も少なくないと推察します。市教育委員会においては，本資料を活用いただくことで，少しでも先生方の不安感や負担感が緩和され，また，先生方が自信をもって外国語の授業ができるようになるための一助となればと考えております。

令和２年２月

福島市教育委員会

目　　次

Ⅰ	学習指導要領の外国語教育の概要（令和２年度～）		1
Ⅱ	福島市の小学校外国語教育の方針		2
Ⅲ	令和２年度の外国語活動の年間指導計画例		3
Ⅳ	外国語科及び外国語活動の指導のポイント		6
1	音声と文字の結び付き	6	
2	必然性のある活動	8	
3	Small Talk	10	
4	「読むこと」「書くこと」の指導	12	
5	学習到達目標（「CAN-DO リスト」の活用）	14	
Ⅴ	効果的な実践事例		16
1	活動事例１【１年生】「これってなにいろ？」	16	
2	活動事例２【２年生】「本をたのしもう」	18	
3	活動事例３【３年生】Let’s Try!1 Unit5 What do you like?	20	
4	活動事例４【４年生】Let’s Try!2 Unit6 Alphabet	22	
5	活動事例５【５年生】We Can!1 Unit2 When is your birthday?	24	
6	活動事例６【６年生】We Can!2 Unit2 Welcome to Japan.	26	
Ⅵ	外国語科における学習評価		27

Ⅰ　学習指導要領の外国語教育の概要（令和２年度～）



中学年の「外国語活動」と，高学年の「外国語科」って，どのように違うのかしら？

これまでの外国語活動同様に「外国語の音声やリズムに慣れ親しむ」ことが重要であり，簡単な事柄について聞いたり，話したりすることや，自分の考えや気持ちを伝え合うことを，言語活動を通じて，体験的に身に付けることが求められます。

また，高学年の外国語科では，中学年での活動に加えて，読むこと・書くことの中で「文字」を扱います。ただし，あくまでも中学年の外国語活動で十分に慣れ親しんだ語句や基本表現を読んで意味を理解したり，書き写したりする内容です。



学習指導要領の目標について

目標は下表のとおりです。小・中学校を通して，コミュニケーションを図る資質・能力を，**「言語活動を通して」**育成することを目指すものとなっています。

目　　標			
	小学校第３学年及び第４学年 外国語活動	小学校第５学年及び第６学年 外国語	中学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による**聞くこと，話すこと**の言語活動を通して，コミュニケーションを図る**素地**となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る**基礎**となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（知識及び技能）	(1) 外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに，**外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ**ようにする。	(1) 外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，**読むこと，書くことに慣れ親しみ**，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる**実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能**を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
（思考力、判断力、表現力等）	(2) **身近で簡単な事柄**について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う**力の素地**を養う。	(2) **コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて**，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，**音声で十分に慣れ親しんだ**外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，**語順を意識し**ながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる**基礎的な力**を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，**日常的な話題**や**社会的な話題**について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
（学びに向かう力、人間性等）	(3) 外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，**相手に配慮しながら**，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，**他者に配慮しながら**，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，**聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら**，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

Ⅱ　福島市の小学校外国語教育の方針

第１学年及び第２学年の「外国語活動」の実施



低学年で「外国語活動」を実施するといっても，どのように行えばいいのでしょうか？

令和２年度から，低学年において，「外国語活動」を５時間から１０時間実施します。時数配当については，各校の実情に合わせて設定してください。



(1) **第１学年及び第２学年「外国語活動」の目標**

外国語を通して，外国の言語や文化に触れながら，外国語の音声と基本的な表現に慣れ親しむようにする。

(2) **年間指導計画について**

自己紹介や数，色，動物，体の部位を中心に，英語の歌やゲーム活動を取り入れた指導計画を，各校において作成する。その際，本誌 p.3~p.4 を参考に作成する。

(3) **指導体制について**

学級担任及びＡＬＴとのティーム・ティーチングを原則とする。ただし，学校によって学級数及びＡＬＴ訪問回数が異なることから，ティーム・ティーチングについては，各校の実情に応じて行うものとする。

(4) **指導要録の取扱い**

顕著な様子が見られた場合には，総合所見及び参考となる諸事項を記録する欄に，外国語活動の学習に関する所見を文章で記述する。（顕著な様子が見られた場合のみ記入する）。

ＡＬＴ及びＥＡＡの活用について



ＡＬＴの先生やＥＡＡの先生との連携については，これまでどおりでいいのでしょうか？

ＡＬＴの先生やＥＡＡの先生は，あくまでＴ２の役割です。



ＡＬＴやＥＡＡは教員ではないため，単独で授業をすることはもちろん，ティーム・ティーチングにおいても，Ｔ１として授業を行うことはできません。あくまで，**学級担任がＴ１**として，学習指導要領の目標に照らし，単元指導計画をもとに授業及びコミュニケーション活動を進めてください。ＡＬＴ及びＥＡＡは子どもたちに生きた外国語に触れさせるための存在として，適切に活用するようお願いします。

Ⅲ　令和２年度の外国語活動の年間指導計画例

第１・２学年共通の場合　外国語活動（年間１０単位時間）

○　英語の歌やゲーム等を通して，児童に英語でコミュニケーションを図る楽しさを体験させ，英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるように単元を配当した。
○　生活科での学習を通して生まれた児童の思いや願いに応じて，外国の文化について体験的に学べるよう学習内容を工夫した。（実施月は一例。各校の実情に応じて設定する。）

月	単元・学習内容	時 数	主な英語表現	教材・準備物
9	○げんきにあいさつをしよう ・自己紹介をする ・英語でのあいさつの仕方を知る	1	Hello. Good morning.[afternoon] My name is～. Nice to meet you. How are you? I'm fine.[good, happy, hungry]	デジタル教材 (SWITCH ON) 英語の歌
	○いくつかな？　かずをかぞえよう ・英語で１～１０までの言い方を知る ・友達と数の言い方ゲームをする	1	one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten	デジタル教材 (SWITCH ON) 英語の歌
１０	○これってなにいろ？ ・英語で色の言い方を知る ・友達と色の言い方ゲームをする （例：カラーバスケット）	1	クーピーの１２色 black, white, red, blue, yellow, green, pink, orange, brown, olive green, light blue, purple	デジタル教材 (SWITCH ON)
	○せかいをみてみよう 「Happy Halloween!」 ・外国の行事ハロウィーンについて知る	1		写真 映像
１１	○どうぶつのなまえをいってみよう ・英語で動物の名前の言い方を知る ・動物の名前の言い方ゲームをする （例：キーワードゲーム）	1	dog, cat, cow, duck, pig, chicken, mouse, monkey, horse, sheep, bear	デジタル教材 (SWITCH ON)
	○本をたのしもう 「The Very Hungry Caterpillar」 ・絵本を使って『はらぺこあおむし』を英語で読み聞かせをする ※生活科「たのしいあきいっぱい」との関連	2	数（１～　１０）【復習】 色【復習】 果物の名前	英語版絵本 「The Very Hungry Caterpillar」
１２	○せかいをみてみよう 「たのしいクリスマス」 ・外国のクリスマスについて知る	1		写真 映像
1	○あたまにタッチ ・英語で体の部位の言い方を知る ・体の部位を使ったゲーム・歌 （例：Head, Shoulders, Knees, and Toes, サイモンセッズゲーム）	1	Touch your　～. Jump, Stop, head, shoulder, knee, toe, eye, ear, mouth, nose	デジタル教材 (SWITCH ON) 英語の歌
2	○おぼえているかな ・数の言い方について学習したことを関連づけたゲームをする （例：仲間づくりゲーム） ・あいさつや動物，色について学習したことを関連づけたゲームをする （例：伝言ゲーム）	1		
合　　計		１０		

※　年間実施時数を５時間で計画している場合は，網掛けの単元を実施する。

第２学年を別内容とする場合　外国語活動（年間１０単位時間）

○　英語の歌やゲーム等を通して，児童に英語でコミュニケーションを図る楽しさを体験させ，英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるように単元を配当した。
○　生活科での学習を通して生まれた児童の思いや願いに応じて，外国の文化について体験的に学べるよう学習内容を工夫した。（実施月は一例。各校の実情に応じて設定する。）

月	単元・学習内容	時数	主な英語表現	教材・準備物
6	○色と形であそぼう ・英語での色の言い方を思い出す ・英語で形の名前の言い方を知る ・色と形を組み合わせたゲームを行う	1	１年で既習の色 circle, triangle, square, star, heart	デジタル教材 (SWITCH ON)
7	○せかいをみてみよう 「たなばたまつりをしよう」 ※生活科１年「なつだあそぼう」との関連 ・七夕の話を聞く ・七夕の歌を歌う Twinkle Twinkle Little Star	1		写真 映像 英語の歌
9	○すうじであそぼう ・英語で１１～２０の言い方を知る ・ゲームで英語の数の言い方に慣れる	1	eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen, eighteen, nineteen, twenty	デジタル教材 (SWITCH ON) 英語の歌
１０	○くだものいっぱい ・英語での果物の言い方を知る ・複数形での果物の言い方を知る ・ゲームを通して，単数形と複数形の果物の言い方に慣れる	1	apple(s), orange(s), strawberry[strawberries], banana(s), melon(s), peach(es), grape(s), watermelon(s), pineapple(s)	デジタル教材 (SWITCH ON)
	○そだてたやさいの名前を言ってみよう ・英語での野菜の名前を知る ・ゲームを通して，野菜のいろいろな言い方に慣れる	1	cucumber(s), potato(es), pumpkin(s), cone(s), carrot(s), sweet potato(es), okra(s), soybean(s), peanut(s), tomato, green pepper(s)	デジタル教材 (SWITCH ON)
１１	○せかいをみてみよう 「みんなに感謝から Thanksgiving Day」 ・外国の感謝祭について知る ※生活科「つたわる広がるわたしの生活」との関連	1		写真 映像
	○本をたのしもう 「The Big Turnip」 ・絵本を使って「大きなかぶ」を英語で読み聞かせをする ※生活科「生きものなかよし大さくせん」との関連	2	家族の言い方 動物の名前と鳴き声 Please come and help. O.K. Are you ready?	英語版絵本「The Big Turnip（大きなかぶ）」
1	○買い物ごっこをしよう ・数と野菜，果物を組み合わせた言い方を知る ・買い物をするときの受け答えの仕方を知る ・お店屋さんとお客さんにわかれて，買い物ごっこをする	1	数の言い方【既習】 野菜の言い方【既習】 果物の言い方【既習】 Two apples, please. Here you are. Thank you.	
2	○せかいをみてみよう 「Happy Valentine's Day」 ・外国のﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝﾃﾞｰについて知る ・バレンタインカードを作る	1		写真 映像
合　計		１０		

※　年間実施時数を５時間で計画している場合は，網掛けの単元を実施する。

第３学年　外国語活動（年間３５単位時間）

順序	使用教材	単元	単元名	標準時数
1	Let's Try! 1	Unit　1	Hello!　あいさつをして友達になろう	2
2	Let's Try! 1	Unit　2	How are you?　ごきげんいかが？	2
3	Let's Try! 1	Unit　3	How many?　数えてあそぼう	4
4	Let's Try! 1	Unit　4	I like blue.　すきなものをつたえよう	4
5	Let's Try! 1	Unit　5	What do you like?　何がすき？	4
6	Let's Try! 1	Unit　6	ALPHABET　アルファベットとなかよし	4
7	Let's Try! 1	Unit　7	This is for you.　カードをおくろう	5
8	Let's Try! 1	Unit　8	What's this?　これなあに？	5
9	Let's Try! 1	Unit　9	Who are you?　～"In the Autumn Forest" きみはだれ？	5
合　計　時　数				３５

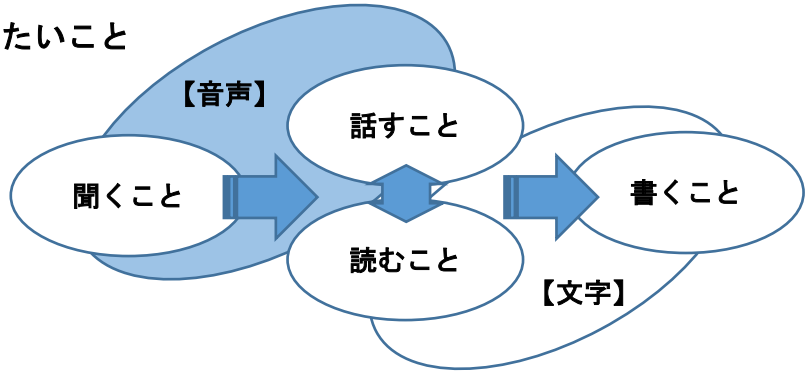
第４学年　外国語活動（年間３５単位時間）

順序	使用教材	単元	単元名	標準時数
1	Let's Try! 2	Unit　1	Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	2
2	Let's Try! 2	Unit　2	Let's play cards.　好きな遊びを伝えよう	4
3	Let's Try! 2	Unit　3	I like Mondays.　好きな曜日は何かな？	3
4	Let's Try! 2	Unit　4	What time is it?　今，何時？	4
5	Let's Try! 2	Unit　5	Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	4
6	Let's Try! 2	Unit　6	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	4
7	Let's Try! 2	Unit　7	What do you want?　ほしいものは何かな	5
8	Let's Try! 2	Unit　8	This is my favorite places. お気に入りの場所をしょうかいしよう	4
9	Let's Try! 2	Unit　9	This is my day.　～"Good morning"～ ぼく・わたしの一日	5
合　計　時　数				３５

Ⅳ　外国語科及び外国語活動の指導のポイント

１　音声と文字の結び付き

１　大切にしたいこと



音声を「聞くこと」から入り，「話すこと」「読むこと」の活動を通して少しずつ文字へと結び付けることで，スムーズに「書くこと」につながります。



（１）意味のあるやり取りを通して

コミュニケーションを行う目的や場面，状況を設定して，自分のことや自分の思いを伝える活動を行いましょう。意味のあるやり取りをすることがコミュニケーション活動の基本です。

（２）チャンスをねらって

また，文字の指導は，文字だけで一単位時間取り上げるのではなく，文字への興味･関心や疑問がふと湧いた時に取り入れるのが効果的です。子どもたちは疑問をもった時がチャンス！少しずつ子どもの目や耳に親しませながら，「へえ～，そうなんだ。」と思わせることで，興味･関心が高まり，少しずつ学習を進めることで文字への抵抗感を減らすことができます。

２　音声と文字の結び付きを分類・整理して

（１）語尾

Monday　Tuesday　Wednesday　Thursday　Friday　Saturday　Sunday

September　October　November　December

Let’s Try! 2　Unit 3『I like Monday.　好きな曜日は何かな』
We Can! 1　Unit 2『When is your birthday?　行事・誕生日』

（２）頭文字

January　June　July　／　March　May

We Can! 1　Unit 2『When is your birthday?　行事・誕生日』

（３）数字と日付

one／first　　two／second　　three／third　　four／forth　　five／fifth

We Can! 1　Unit 2『When is your birthday? 行事・誕生日』

（４）単数と複数

pen／pens[z]　　peach／peaches[iz]　　cat／cats[tz]　　glue stick／glue sticks[s]

Let’s Try! 2　Unit 5『Do you have a pen?　おすすめの文房具セットをつくろう』
We Can! 2　Unit 3『He is famous. She is grate. 人物紹介』

３　職業名を通して

【活動例】　We Can! 2　Unit 8『What do you want to be?　将来の夢・職業』

○　なりたい職業をたずねる言い方を知る活動を通して，少しずつに文字に慣れることができるようにする。

○　言語材料（職業名）

artist, astronaut, baker, bus driver, comedian, dentist, farmer, figure skater, fright attendant, pianist, pilot, singer, train conductor, zookeeper

学習活動・内容（抜粋）	○　指導上の留意点
3　なりたい職業をたずねる時の英語での言い方を知る。 (1) ピクチャーカードを用い，ALT・EAA に発音してもらい，聞いて復唱する。	○　絵カードにより音声と意味を結びつけることができるようにする。
(2) Pointing game をする。 ・「絵あり・文字なし」カード ・「絵あり・文字あり」カード (3) 文字の文末に注目して分類する。 "ist"で終わる言葉　例）artist, dentist "er"で終わる言葉　例）baker, farmer その他の言葉　例）comedian, pilot (4) 文末の分類ごとにアンダーラインを引き，色別に整理する。 (5) デモンストレーションを見て，なりたい職業をたずねる言い方について学ぶ。 4　本時のまとめをする。	○　２種類のカードを使うことで，少しずつ身につけられるようにしていく。 【絵と意味】→【意味と文字】 ○　文字を文末に注目して分類することで，定着しやすくするとともに，意味と文字がさらに結び付けやすくする。 ○　自分の教科書を分類・整理させることで，理解しやすいようにする。 

職業のつづりが母音 a / i / u / e / o で始まる場合には，a ではなく an に変化することを指導しましょう。



２　必然性のある活動

１　必然性のある活動のために　～コミュニケーションを行う目的や場面，状況～

「やってみたい」「聞きたい」「伝えたい」と思うような，伝え合う必然性のある活動を設定することで，主体的な学びを促すことができます。そのためには，コミュニケーションの目的や場面，状況について児童が理解できるようにすることが大切です。

教師が ALT や EAA とデモンストレーションする姿を見せることで，児童は場面や状況について想像したり，理解したりすることができます。また，写真や絵カードを黒板に提示しておけば，活動を確認したり，振り返ったりする場面で有効です。



２　必然性のある活動や場の設定　～学級の児童に合った場の設定とは～

【いつ？】　１０月に，「夏休みの思い出について伝え合う」，自分の誕生日が過ぎているのに「誕生日にほしいものをたずね合う」と言われたら，少し遅いように感じませんか。修学旅行や宿泊学習，地域のお祭りがある季節なら，そこでほしい物やしてみたいこと，思い出について伝え合うことができます。

【どこで？】　クリスマスが近づく季節なら，ALT の国のクリスマスやほしいプレゼント，クリスマスカードの書き方について学ぶことができます。そこに，外国の文化を学んだり，伝え合ったり，書いたりする意味「必然性」が生まれるのです。

【何を？】　「好きなものを伝え合う」学習なら，そこにひと工夫して，「自分と好きな動物が同じ友達を探そう」「クラスの好きな○○ランキングをつくろう」「伝え合ったことをもとにクイズ大会をしよう」とすれば，意味のあるコミュニケーション活動となるでしょう。

～各教科等の学習を外国語の授業に生かしてみよう～

国語 自分の好きな漢字　名前の画数	**生活・理科** 草花　野菜　虫　色	**家庭** バランスのよい食事　生活時間
社会・総合的な学習の時間 地域のよさ　史跡の紹介　道案内	**学級活動** 好きな教科　将来の夢	
学校行事 修学旅行　夏休み　冬休み　スポーツ大会　思い出の学校行事		



「必然性」と言われても，実際，「何をやっていいのか分からない」「アイディアが浮かばない」「活動が複雑になるのではないだろうか」「準備が大変」と不安に思っていませんか。

はじめは子どもたちの生活場面から取り入れられそうなことを，各単元の中でチャレンジしてみましょう。

各単元には，それぞれ中心となる基本文と語彙が示されています。これらの語彙や表現を使って，児童にとって興味・関心のある事柄や，よく知っている人物など，児童にとって身近な題材について伝え合うことが大切です。

(1) 本時の目標を決める

本時の学習で，児童にどんな力を身に付けさせたいかを教師自身が明確にもちます。

(2) 目的や場面，状況について考える

児童の興味・関心，他教科との関わりや学校や地域の特性等を考えながら，活動を組み立てていきます。児童にとって身近で関心のある「食べ物」を取り入れるのであれば，次のような順序で考えていきます。例えば……，

①目的は？
学級の「好きな食べものランキング」を調べて，ＡＬＴの先生に教えてあげる。

②どんな場面で？
教室で

③誰に？
友達に聞く

④どんな活動に？
グループに分かれて，好きな「くだもの」「野菜」「メニュー」を聞き合う。

＜想定される会話の流れ＞

A: What food do you like?
B: I like sushi.
A: Oh, you like sushi? Me, too.
B: What fruit do you like?
A: I like apples. How about you?
B: I like grapes.

会話の流れを想定し，内容を検討しましょう。
・目標に照らし，適切な語句や表現を使用しているか。
・繰り返し使用しているか。



(3) 具体的な表現や，言語材料を決める

児童自身が自分の考えで言語材料を取捨選択し，自分の思いを表現できる活動になっているかが何より大切です。そのために，児童がどんな語彙や表現を使いたいかについて事前に予想しておきます。コミュニケーションの流れは，できるだけシンプルなものにしますが，「Oh.」「Me, too.」など，表現の工夫も加えると，他者に配慮したコミュニケーション活動につながります。

3　Small Talk

1　Small Talk とは？

Small Talk とは，高学年新教材で設定されている活動です。２時間に１回程度，あるテーマのもと，指導者のまとまった話を聞いたり，ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりします。５年生は指導者の話を聞くことを中心に，６年生は教師と児童，または，児童同士のペアで伝え合います。（「小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック」p.130~p.134 を参照）

では，実際に授業のどの場面でどのように行ったらよいのでしょうか？

2　授業スタート直後で “Let’s have a small talk!”

授業の最初の５分間など，帯時間を使って続けることで small talk に慣れ親しませましょう。

＜例＞　What time do you ～？の単元導入の Small Talk

ＡＬＴと担任で

A: What time do you get up, Saito sensei?



⇒指導者同士でやり取りをして見せ，話題を提供する。



H: At five thirty.

H: What time do you get up, Ms. Evans?

A: At five fifty.

担任と児童で

H: C_1, what time do you get up?

C_1:　６時半！



⇒解説をはさまず，教師同士で見せたやり取りを教師と児童で行う。

H: In English, please.

C_1: Six thirty.

A: Good! At six thirty.

H: C_2, what time do you get up?

C_2:　７時！



H: Someone say in English.

C_3 At seven.

A: At seven. Very good!

担任と ALT・ＥＡＡのやり取りで大切なことは，

・ゆっくりと話す

・ジェスチャーや絵カードを用いて

・相手の言ったことを繰り返して

この後，クラス全員を巻き込んで，子どもたち同士のやり取りにつなげるのもよいでしょう。



それでも，どんな会話をしてよいのか分からないという時は，試しに参考動画(※)を見るとよいでしょう。そして，まずはそのまま追試してみましょう。そこから，児童の実態に応じて，少し内容を変えたり，語彙や表現を増やしたり減らしたりしてみましょう。

※YouTube 文部科学省／mextchannel を参照

３　授業の終末で “Let’s have a small talk!”

その授業で用いたキーワードや基本文を用いて，Small Talk をすることで，まとめや復習につながります。ぜひチャレンジしてみましょう！

４　Small Talk の進め方

知らない単語や表現に出合ったときに，何とか英語でコミュニケーションを成立させるためには，文脈やその他の手がかりをもとに**「推測」する力**と，**実際に使ってみようとする態度**が必要とされます。英語に初めて触れる小学校の段階では，こうした資質・能力を身に付けるために，「十分に理解，練習してから活動する」という学習の流れではなく，「**多少分からないことがあっても，推測して，まずやってみてから課題に気付き，練習等で解決する**」という学習の流れが効果的です。５年生は「聞くこと」を中心とすること，６年生は「ペアで伝え合うこと」を中心に行うこととなっていますが，児童の実態に応じて行うことが大切です。

＜指導者同士で＞

T: Today it is my mother’s birthday.
（黒板に家系図を描いたり，写真を見せたりする。）
A: Oh, congratulations!
My birthday is January 2.
When is your birthday?
January? February? March?
（指で数字を表しながら）
T: My birthday is April 19.
A: April 19?　It’s spring.

＜児童同士で＞

～指導者がやって見せた後で～
C₁:（ピアノを弾くまねをする）
C₂: Can you play the piano?
C₁: Yes, I can.
C₂:（バスケットをするまねをする）
C₁: Can you play basketball?
C₂: Yes, I can.

＜教師と児童で＞

T: Look. This is my bag.
It’s heavy.（重そうに）
Please hold it.（バッグを差し出す）
What’s inside? Can you guess?
What do I have in my bag?
C: えんぴつ？
T: Pencils?
（バッグを覗いてから）No, sorry.
Anything else?
C: Books!
T: Yes! I have two books.（２冊出しながら）

【プラスワン】

C: Do you like apples?
T: No, I don’t.
C: Oh, do you like oranges?
T: Yes, I do.
C: Oh, you like oranges.
Yes / No で答えるだけでなく，次の質問を考えて聞いたり，相手が言ったことを繰り返したりすることも Good！

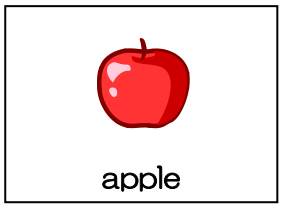
4　「読むこと」「書くこと」の指導

1　「読むこと」の指導

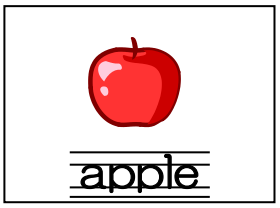
（1）「読む」活動の進め方

① 絵と文字をセットで提示

まずは，「聞く」「話す」活動から，自然に「文字に触れること」を通して文字への認識を高めましょう。



中学年用



高学年用

② やり取りの仕方を文字で提示

音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにしましょう。

What's this?　　It's an apple.

（2）「読むこと」の活動例

① Jingle（ジングル）

Jingle とは，文字と発音との間の規則性を知り，英語のつづりの正しい読み方を学ぶ方法です。
学習内容に合わせて繰り返し取り入れることで，文字と音との規則性に気付き，少しずつ単語を読むことができるようになります。



② 身の回りの英語の文字を見つける活動

例）コンビニの看板や会社のロゴマークなど（写真があると効果的）

③ 読み聞かせ

例）The Very Hungry Caterpillar（邦題：『はらぺこあおむし』）

Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?

（邦題：『くまさん くまさん なにみてるの？』）

児童になじみのある短く単純な表現が繰り返し用いられている絵本が効果的。音声に十分慣れ親しませた上で，絵本の文字を指示しながら，単語の認識へ導いていきましょう。

2　「書くこと」の指導

（1）「書く」活動の進め方

文字を正しく書くために，文字や英単語を繰り返し書く活動を行うのではなく，文字を書きたくなる場面設定を行うことが大切です。

文字の線の長さや高さ等について正しく書けるように，四線のあるワークシートを活用するといいですね。



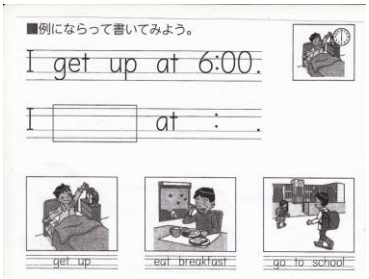


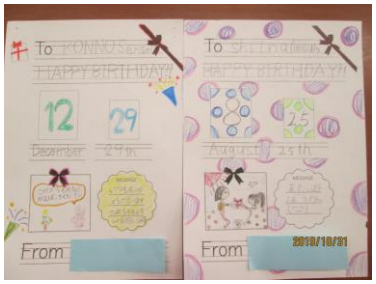
毎時間少しずつ，音声で慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書き写す活動を行いましょう。

① 単語の中の文字や単語を**なぞり書き**する。

② **例にならって**，単語や基本的な表現を書き写したり，**例の中から選んで**，あてはまる単語や基本的な表現を**書き写し**たりする。

③ 伝えたいことを表現するために，**相手意識・目的意識**をもって書く。





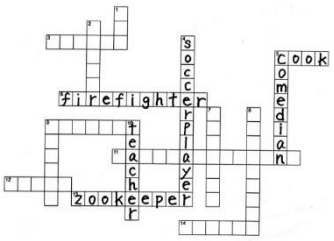
←友達へのバースデーカードの作成する活動を行うこで，書く目的が明確になり，読み手を意識して書くことにつながります。

We Can!1 Unit 2『When is your birthday? 行事・誕生日』

（2）「書くこと」の活動例

① 単語とつづりを意識させる活動

例）クロスワードパズル，ワードサーチ





② 語順を意識させる工夫



文の語順への気付きは，音声だけではなかなか起こりにくいと考えられます。文の語順に規則があることに気付かせるためには，音声化されていたものを可視化して見せることが大切です。十分に音声に慣れ親しんできた基本的な表現を，**単語が添えてある絵カード**を使って，いくつか**列挙して示す**ことが有効です。

板書や「書くこと」の活動で使用するワークシートにおいても，同様に示すことで語順への意識が高まります。ただし，あくまで意識させることにとどめ，日本語との違いを解説したり，文法的な説明をしたりする必要はありません。

We Can!2 Unit 3『He is famous. She is great. 人物紹介』

理解させるのではなく，気付きを促すことが大切です。



③ 自分の伝えたいことを書き写す活動



自分の町の紹介ポスターを作成する活動を行うことで，相手に伝えるという目的を意識して書くことにつながります。

目的が明確になる活動を仕組むことが大切です。



We Can!2 Unit 4『I like my town. 自分たちの町・地域』

４　学習到達目標の明確化（「CAN-DO リスト」の活用）

２０１３年３月に，「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」が公表され，各中・高等学校で「CAN-DO リスト」の作成が進んでいます。

１　「CAN-DO リスト」とは何か？

「CAN-DO リスト」とは，「言語を用いて何ができるか（CAN-DO）」という観点に基づいて，児童・生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を４技能別に「～することができる」という形で設定し，リスト化したものです。



２　「CAN-DO リスト」が作成される目的は？



(1) 外国語能力向上のために，生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し，教員が生徒の指導と評価の改善に活用するため。

(2) 学習到達目標を，言語を用いて「～することができる」という能力記述文の形で設定することにより，学習指導要領を踏まえた，４技能を有機的に結び付け，総合的に育成する指導につなげるため。

(3) 教員と生徒が外国語学習の目標を共有するため。これにより，言語を用いて，「～ができるようになりたい」，「～ができるようになることを目指す」といった自覚が芽生え，言語習得に必要な自律的学習者としての態度・姿勢が身に付くとともに，「言語を用いて～ができるようになった」という達成感による学習意欲のさらなる向上にもつながることが期待されます。

３　評価規準と「CAN-DO リスト」の関係は？（中学校の場合）

【単元別評価規準】

単元別評価規準では，教科書や教材などの内容に応じた具体的な目標を４つの観点で示します。

コミュニケーションへの関心･意欲･態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解

【CAN-DO リスト】

外国語表現の能力		外国語理解の能力	
話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は，英語活用能力の目標であるため，「能力」に関する２つの観点を扱います。**この２観点を４技能に分け，学年や年間といった学習のまとまりや，単元ごとに「～することができる」という能力記述文で示す**と，「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標になります。



中学校や高校で「CAN-DO リスト」が作成され，活用されてきた経緯は分かりましたが，小学校ではどうなるのでしょうか？

５・６年生については，教科書（NEW HORIZON Elementary）の別冊 (※) Picture Dictionary（p.44~p.45）に，各 Unit の冒頭の Our Goal をもとに，「CAN-DO リスト」がリンゴの木で示されています。「英語で何ができるようになるのか」が具体的に示されており，できたら色を塗るなど，自己評価ができるようになっています。



※　Picture Dictionary は５年生に配付（令和２年度は，６年生にも配付）され，２年間に渡って「自分自身の学びの履歴」として使用することができます。小学校で学びたい語（600～700 語程度）や表現が収録されています。

NEW HORIZON Elementary 年間指導計画作成資料によると，単元の目標が「CAN-DO」の形で示されています。「英語を使って何ができるようになるか」を，まず指導者が具体的にイメージし，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価規準をもとに，適切に授業を進めていくことが大切です。

	単元名	単元の目標
NEW HORIZON Elementary 5	Unit 1 Hello, friends.	名前やすきなもの・ことを伝えることができる。
	Unit 2 When is your birthday?	誕生日やほしいものを伝えることができる。
	Unit 3 What do you want to study?	学びたい教科やなりたい職業を伝えることができる。
	Unit 4 He can bake bread well.	地域の身近な人を紹介することができる。
	Unit 5 Where is the post office?	場所をたずねたり，答えたりすることができる。
	Unit 6 What would you like?	ていねいに注文をしたり，値段をたずねたりすることができる。
	Unit 7 Welcome to Japan.	日本の四季や文化について紹介することができる。
	Unit 8 Who is your hero?	あこがれの人について発表することができる。
NEW HORIZON Elementary 6	Unit 1 This is me!	名前や好きなもの・ことについて発表することができる。
	Unit 2 How is your school life?	世界の子供たちの日常生活を知り，自分たちの生活について伝え合うことができる。
	Unit 3 Let’s go to Italy.	言ってみたい国や地域と，その理由を説明することができる。
	Unit 4 Summer Vacations in the World.	世界の夏休みの過ごし方を知り，自分の思い出を紹介することができる。
	Unit 5 We all live on the Earth.	地球に暮らす生き物について考え，そのつながりを発表することができる。
	Unit 6 Let’s think about our food.	食材を通じて世界のつながりを考え，メニューを発表することができる。
	Unit 7 My Best Memory	小学校生活の思い出を伝え合うことができる。
	Unit 8 My Future, My Dream	中学校生活や将来について考え，夢を発表することができる。

単元の目標が，「～することができる」という表現で示されています。



Ⅴ　効果的な実践事例

活動事例１　これってなにいろ？　【１年生】

導入

あいさつをしましょう。

H: 担任　*A:* ＥＡＡ　*C:* 児童



H: Good afternoon, everyone.
How are you?
Let's sing "Hello song".





指導ポイント

リズムに乗って，楽しく歌を歌いながら英語の授業の雰囲気作りをする。歌に動作を加えることで，楽しく活動できるようにする。

展開

今日のめあてをたしかめましょう。



A: Today, we will talk about color.

H: 「カラフル」という言葉を聞いたことありませんか？



児童の反応
「color? カラーって何だろう？」
「いろだ。色！」



㋮　色は英語でどう言えばいいのかな？

指導ポイント

学級担任が，ＡＬＴが話す英語をすぐに訳さないことで，児童が自ら気付くことができるようにする。



A: What color do you know?

児童の反応

C₁: レッド，ブルーの他にも，ライトブルー，ブラウン，グレーって色を聞いたことがあるよ。



C₂: ピンク，ブルー，オレンジを知ってるよ。黄色は英語でなんて言うのかな？



ＡＬＴの先生といっしょに言ってみましょう。



H: 今日は，ＡＬＴの先生と一緒に，色の名前を言ってみましょう。

ＡＬＴが話す英語を聞いて，発音のポイントに気を付けながら繰り返して言う。

慣れ親しみ

手をたたきながら，テンポよく言う。

身体を動かし，リズムをとりながら言う。

指導ポイント

少しずつ段階を踏みながら，英語のリズムやイントネーションに慣れ親しませることで，正しい発音で繰り返して言うことができるようにする。

動作を取り入れることで，楽しく自然と言い方を覚えることができるようにする。

展開



ミッシング
ゲーム



ポインティング
ゲーム

（「はじめての外国語指導(H29)」 p.17 参照）

ＡＬＴの先生からおりがみをもらいましょう。



H: ＡＬＴの先生から，自分のほしい色のおりがみをもらってきましょう。



児童の反応

「何色にしようかしら？」

「ぼくが作った袋にあさがおの種を入れて，幼稚園のお友達にプレゼントしたいな。」





A: What color would you like?

H: Red, please.



C: Blue, please.



児童の反応

「“please”を付けて言えばいいのかな？

指導ポイント

児童が安心して活動に参加できるよう，担任は児童の表情や様子を見ながら支援する。ＡＬＴとのコミュニケーションに戸惑う児童には，一緒に言い方を唱えることで，安心して活動できるようにする。

終末

ふりかえりをしましょう。



H: 今日の英語の学習はどうでしたか？

児童の反応

C_1: ＡＬＴの先生に，ほしいおりがみの色を伝えられたよ。



C_2: たくさんの色の名前が分かって楽しかったです。



指導ポイント

頑張ったこと，できるようになったことを認め，称賛することで，次の英語学習への意欲を高めることができるようにする。

活動事例２　本をたのしもう『The Very Hungry Caterpillar』　【２年生】

導入

前の時間の学習を振り返りましょう。

H: 担任　*A:* ＥＡＡ　*C:* 児童



H: 前の時間は，「はらぺこあおむし」に出てくる食べ物や曜日の英語の言い方を勉強しましたね。ふり返りカードに書いたことを発表してください。

指導ポイント

本時の活動につながる振り返りを意図的に選び，紹介することで，意欲づけを図る。

児童の反応

「曜日の歌は難しかったけれど，ちょっとだけ覚えられてよかった。」
「セブンステップス（歌）で１～７までの数を覚えられてよかったです。」
「早くはらぺこあおむしの劇をやりたいです。」



展開

「はらぺこあおむし」の劇をするための準備をしましょう。

㋮「はらぺこあおむし」の劇をしよう。



H: 前の時間の復習をしましょう。

指導ポイント

歌や簡単な言葉の繰り返しを強調して言わせることで，英語のリズムや音声のおもしろさに気づかせ，親しむことができるようにする。

A: Let's review, first.
One apple.
Two pears.
Three plums.
Four strawberries.
Five oranges.



A: Let's sing "Seven Steps".

C: One two three four five six seven♪
One two three four five six seven♪
One two three One two three♪
One two three four five six seven♪





C: One apple.
Two pears
Three plums.
Four strawberries.
Five oranges.
（一文ずつ繰り返して）



A: Let's sing "Weekly Song".

C: Sunday, Monday, Tuesday,
Wednesday, Thursday,
Thursday, Friday, Saturday,
Sunday comes again. ♪





児童の反応

「食べ物と数は覚えたよ」
「歌だと覚えるのが簡単だね」
「曜日は難しいけど，前より覚えられたよ」



H: 次に，はらぺこあおむしの目を作りましょう。

A: Let's make caterpillar's eyes.
One, draw a circle.
Two, draw a green circle inside.
Three, cut a circle.
Four, put it on the cap.



児童の反応

「どんな目にしようかな？」



展開

みんなで劇をしましょう。



H: ＥＡＡの先生の後について，繰り返し言いましょう。

A: A little egg lay on a leaf.
He started to look for some food.
On Monday.

C: On Monday.

A: He ate one apple.

C: One apple.

指導ポイント
簡単な言葉を繰り返して言ったり，動作化したりすることで，絵本の世界に親しむことができるようにする。

（りんごを食べたいあおむしたちが、ホワイトボードの下をくぐる。）



A: But

C: But

A: Still hungry.

C: Still hungry.

A: He ate many foods.

C: Many foods.

A: That night he had a stomachache.

C: Stomachache.

A: Next Sunday the caterpillar ate nice green leaf.

C: Nice green leaf.

A: He wasn't hungry. He built a cocoon.

C: Cocoon.

A: He was a beautiful butterfly!

C: Butterfly.





児童の反応
「ムシャムシャムシャムシャ，オレンジおいしいね！」
「まだ，おなかいっぱいにならないよ！」

終末

今日の授業を振り返りましょう。

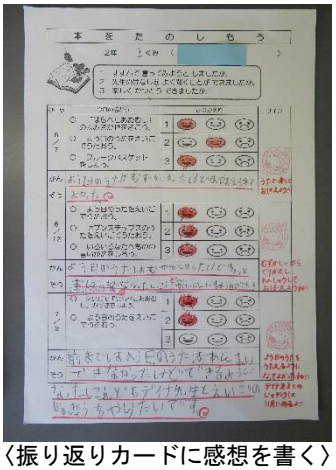


H: 今日の授業はどうでしたか？

指導ポイント
顔のマークに色をぬった後に，感想を自由に記述させる。自分や友達のよさに気づかせることで，次の活動への意欲づけとする。

前は，曜日の歌をあまり歌えなかったけれど，今日は歌えるようになりました。ＥＡＡの先生とまた英語の授業をやりたいです。





〈振り返りカードに感想を書く〉



「はらぺこあおむし」の劇が楽しかったです。私はあおむしになりきって，いちごを食べました。
みんなではらぺこあおむしの絵本を劇にできてよかったです。

活動事例３　Let's Try! 1　Unit 5　What do you like?　【３年生】

導入

あいさつをしましょう。

H: 担任　*A:* ＥＡＡ　*C:* 児童



H: Hi. Good morning, everyone?
How are you?

C₁: I'm Great.
C₂: I'm happy.
C₃: I'm hungry.
C₄: I'm pretty good. Thank you!



指導ポイント

教師の問いかけに，そのときの自分の気持ちや状態について，ジェスチャーをつけながら言わせることで，より気持ちが伝わるようにする。

チャンツをしましょう。



H: Let's chant!
What color do you like?

C: I like blue.



H: What sport do you like?

C: I like baseball.



指導ポイント

オルガンのリズム機能を使って，リズムに乗って楽しく歌うことで，本時の学習につながる語彙や表現に慣れ親しむことができるようにする。

展開

今日のめあてを確認しましょう。

㋮　クラスの「好きなものランキング」を作ろう。



H: 「何が好きか」をたずねる表現をつかって，３年生のいろいろなナンバーワンを調べましょう。

児童の反応

「ＥＡＡの先生の好きな動物は何かな？」
「クラスで一番人気のある色は何かな？」
「先生や友達に聞いてみたいな！」



指導ポイント

身近で簡単な事柄で，子どもたちが知りたい，伝えたいと思うような学習課題を設定することで，友達とコミュニケーションする必然性をもたせるようにする。

何と言っているか考えながら聞きましょう。



E: I like soccer.
H: Soccer? I like tennis.
E: Nice! What animal do you like?
H: I like cats. It's cute.
E: Cats? I don't like cats. I like rabbits.
H: Me too!



指導ポイント

教師のデモンストレーションを聞くことで，反応したり，相手の言葉を繰り返して言ったり，自分の考えを付け足して言ったり，会話を続ける工夫に気付くことができるようにする。

展開

自分が友達に話した英語を，正しく書いてみよう。



H: さて，先生たちの会話からどんなことに気付きましたか？

児童の反応

C₁: Me,too.や，Nice! って言っていたし，会話が長く続いていたよ。他にも，相手が言った言葉を繰り返していたね。

C₂: 「I don't like～.」って，嫌いなものを言った時には，その後に「I like～.」って好きなものを伝えていたね。





指導ポイント

会話の工夫について黒板に提示することで，振り返ったり，意識したりしながら活動できるようにする。



H: 会話の工夫に気を付けながら，先生や友達にインタビューしてみましょう。

C₁: Hi!
C₂: Hi!
C₁: What sports do you like ?
C₂: I like soccer.
C₁: Me too. I like soccer.
C₂: Oh, tennis! Nice!
C₁: Thank you.
C₂: You are welcome.





〈目的をもって伝え合う子どもたち〉



H: インタビューの結果を集計して伝え合いましょう。



C₁: No. 3 is soccer!
C₂: No. 2 is dodgeball!!
C₃: No. 1 is swimming!!!

〈ランキングの発表が，本時のゴール！〉

終末

ふり返りをしましょう。



H: 今日の授業でどんなことができるようになりましたか。

児童の反応

Me, too.や，Nice など言って，会話が長く続けることができました。

友達と協力して結果をまとめて発表することができて良かったです。





指導ポイント

子どもたちの感想をもとに，学びのよさや，成長を価値付けてあげることで，次の学習への意欲付けにつながるようにする。

活動事例４　Let's Try! 2　Unit 6　Alphabet　【４年生】

導入

歌を歌いましょう。

H: 担任　*A:* ＥＡＡ　*C:* 児童



H: Let's sing ABC song and ABC chant.
Next, more quickly.　Next, from z to a.

指導ポイント

順番やスピードなどバリエーションをつけ加えて繰り返すことで，レベルアップをめざしながら楽しく取り組めるようにする。

前の時間の復習をしましょう。



H: Let's review alphabet.



A: Please, repeat after me.
a…[a]…apple,……z…[zi]…zoo.

C: a…[a]…apple,……z…[zi]…zoo.



指導ポイント

「聞くこと」「話すこと」「見ること」を繰り返し行うことにより，言葉を耳と口と目を使って自分の話す音・言葉・文字をつなげて知ることができる。そのことにより，より定着を図ることができるようにする。



H: Let's try pointing game.
What do you want?



A: I want

A: I want





H: Let's play word search game.

A: This word has seven letters.
F-L-O-W-E-R-S.



指導ポイント

文字の数や含まれているアルファベットなどのヒントを手がかりに言葉探しをする。見つけたりカードを並べたりしながら，一つずつアルファベットを言い，その言葉を発音するようにして，定着を図るようにする。





展開

今日のめあてを確認しましょう。



H: Please listen to us.

H: How do you spell your name?
A: M-A-R-K, Mark.
H: Oh, M-A-R-K. Your name is Mark.
A: How do you spell your name?
H: A-K-I-K-O, Akiko. My name is Akiko.



展開



H: What were we talking about?

児童の反応
「アルファベットを言っていたよ」
「自分の名前なのかな？」
「自分のことを紹介していたよ」





H: That's right.
We were taking about spelling of my name.
Do you want to try?

児童の反応
「やってみたいな」
「もうできそうだよ」



㋮ 自分の名前を「つづり」を使って友達に教えよう。

アルファベットカードで自分の名前を作りましょう。



H: Next, let's line up the cards on your desk from a to z.
Let's try to spell out your name.



児童の反応
アルファベットカードを並べながら「M-A-Y-U-M-I」

指導ポイント

自分で abc の順にカードを並べる。自分でカードを見つけ，並べて発音する out put の場を保障する。

自分の名前のカードを並べて発音する。自分自身の名前を言ってみることで，より本物のコミュニケーション活動を図られるようにする。

これは誰でしょう。友達の名前をカードで作りましょう。



H: Who is this? H-I-R-O.

A: This name has nine letters. Y-U-K-I-J-I-R-O.



児童の反応

C₁: H-I-R-O.
ひろくんだ！



C₂: Y-U-K-I-J-I-R-O.
ゆきじろうくん！長～い。



終末

今日の学習を振り返りましょう。



H: Let's review today's lesson.

児童の反応

C₁: 自分の名前が作れて嬉しかったです。



C₂: 友達が手伝ってくれたので，並べることができました。



C₃: もっと他の言葉もやってみたいです。

指導ポイント

コミュニケーションの観点を振り返り，よかったところを称賛する。自分から進んで取り組んだり友達と協力して作ったりしている児童を称賛し，次時への意欲を高めることができるようにする。

活動事例５　We Can! 1　Unit 2　When is your birthday?　【５年生】

［関連：NEW HORIZON Elementary 5 Unit2］

H: 担任　*A:* ＡＬＴもしくはＥＡＡ　*C:* 児童

導入



H: Good morning, everyone!
How are you?
How is the weather?
What day is it today?
What's the date today?



C: I'm great!

月の言い方を確認しましょう。



H: Let's chant!





C: It's January 17.



指導ポイント

How are you? だけでなく，既習の表現をその都度加えて，毎時間継続していくことで，様々な表現になれ親しむことができるようにする。

指導ポイント

１回目，２回目…と，聞かせ方や言わせ方をオプションで変えることで，何回でも新鮮な気持ちで取り組むことができるようにする。

１回目は，「字幕なし」「ゆっくり」で聞かせ，２回目以降は，「字幕あり」「ふつう」で聞かせたり，質問する側と答える側に分かれて言わせたりするなど，バリエーションを加える。

展開



H: Please listen to us.
We will have a demonstration.

H: Hi, Ann sensei.
A: Hi, Saito sensei.
H: When is your birthday?
A: My birthday is February 7.
When is your birthday?
H: My birthday is May 19.
A: Thank you.
H: Thank you.



指導ポイント

まず，デモンストレーションを指導者同士からはじめて，指導者と児童全体や児童同士へと段階を追って行うことで，子どもたちが自信をもって活動できるようにする。

今日のめあてを確認しましょう。



(め)　いろいろな有名人の誕生日を，友達に伝えよう。

展開



（お互いに持っている絵カードを確認して）
H: Hi. What's your name?
A: Hi. I'm Doraemon. What's your name?
H: I'm Snow White "*Shirayukihime.*"
When is your birthday?
A: My birthday is September 3.
When is your birthday?
H: My birthday is December 21.
A: Thank you.
H: Thank you.



指導ポイント

お互いに誕生日を知っている場合，子どもたちが互いに興味をもっているアニメや有名人を取り上げ学習課題とすることで，知りたい，伝えたいという意欲を高めることができるようにする。

児童の反応
「ドラえもんだって」
「９月３日が誕生日だって言ってたよ」





Are you ready? Let's start!

C₁: My name is Sakamoto Ryoma.
C₂: When is your birthday?
C₁: My birthday is January 3.
C₂: Oh, I see.



指導ポイント

ゲームの時間を決めて，その間は音量を小さく英語の歌をかけることで，子どもたちの緊張をほぐして活動することができるようにする。また，一人でやるかペアでやるか選ばせることで，よりリラックスして取り組むことができるようにする。

C: 坂本龍馬って１月３日生まれなんだって。知らなかった！



終末

今日の授業を振り返りましょう。



H:「振り返りカード」に記入しましょう。

指導ポイント

会話をしていた時の，自分や友達のよさなど，教師が振り返るポイントを伝え，子どもの振り返りのよさを紹介し価値付けることで，次時の学習への意欲付けを図ることができるようにする。



C₁: いろいろな友達と話したり，答えたりして楽しかったです。

C₂: いろいろな有名人の誕生日を知ることができておもしろかったです。もっと日にちの言い方を正確にしたいです。

C₃: When is your birthday? がやっぱり難しかったけど，うまく言えるようになりたいです。

C₄: 何のキャラクターのカードになるのか気になったけど，一番は英語をペラペラに話したいです。





H: （C₃ さんの振り返りに）友達に誕生日をきちんと分かるように話すことができたね。

活動事例６　We Can!2　Unit 2　Welcome to Japan.　【６年生】

［関連：NEW HORIZON Elementary 6 Unit 3］

導入

あいさつをしましょう。　　*H:* 担任　*A:* ＡＬＴもしくはＥＡＡ　*C:* 児童



Good afternoon, everyone!
How are you?
How is the weather,today?
What day is it today?
What's the date today?



Let's play chalk game. Everyone, stand up!
（ＡＬＴが両手にチョークを持っている。
右手：青→よこ，左手：赤→たて）
A: When is your birthday?
C$_1$: My birthday is ~.
（*C*$_1$ はＡＬＴが持っている２種類のチョークの色を選び，その列の人から着席する。）
A: What sports do you like?
C$_2$: I like volleyball.　（全員が着席したら終了）



指導ポイント

担任やＡＬＴからの既習事項を生かした質問に，自分のこととして答えることで，自分のことを伝える経験を増やすことができるようにする。

展開

㋮　自分たちの町を分かりやすく紹介しよう。



H: 湯野町について，グループで協力し合って，ＡＬＴの先生に分かりやすく紹介しましょう。

A: Do you have any famous things or events in your town?



児童の反応

「“ちゃんこちゃんこの湯”を紹介したいな。足湯って，なんて言えば通じるかな」
「温泉がいっぱいあるね。“熱い”んだよね」
「湯野で有名なのは，やっぱり“桃”ね」
「“西根堰”も有名だよ」
「“うそどり”も教えてあげたいわ」





指導ポイント

伝えようとする内容を子どもたちに考えさせた上で，自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

英語での言い方を質問しましょう。



H: Please listen to us.
Robert sensei, how do you say “足湯” in English?

A: Oh, it's “foot bath.”



H: So we have foot bath in our town. How do you say “熱い” in English?

A: Oh, “hot.” It's hot.



H: We have *ashiyu*, foot bath. It's hot. We can enjoy it.

児童の反応

足湯は foot bath っていうんだ。おもしろいね！



指導ポイント

デモンストレーションをしながら，英語での町の風物の紹介の仕方をやって見せることで，子どもたちが自分でＡＬＴにたずねることができるようにし，実際に質問させる。

展開



C: We have peaches in our town. How do you say “甘い” in English?



A: Oh, “sweet.” You can enjoy sweet peaches.

C: We can enjoy sweet peaches.

We have  usodori in our town.



peaches

指導ポイント

黒板に絵カードを用いて，文構造を意識できるような形で提示しておくことで，子どもたちが発話するときの参考となるようにする。

ＡＬＴの先生や友達に自分の町を紹介しましょう。



H: Please introduce our town in English in pairs.

A: Please let me know about your town, Yuno.





C$_1$*:* We have *Nishinezeki* in our town.　It’s old.

C$_2$*:* We have *Atagoyama* in our town. We can enjoy the beautiful sight.

C$_3$*:* We have *onsen* in our town. It’s *Dosen-no yu*. It’s a little hot. We have *usodori* in our town. It’s a charm. It’s cute.



指導ポイント

質問を受けた語句を，教師やＡＬＴが児童のワークシートにメモすることで，発話したり書き写したりするときの参考にできるようにする。

英語で書きましょう。



H: Please write down in English.

We have　　in our town.

　　in our town.

It’s　　.

指導ポイント

黒板に書かれた基本的な表現と，ワークシートのメモをもとに，児童が書きたいことを選んで書き写すことができるようにする。四線を与えておくことで，正しく書き写すことを意識することができるようにする。

終末

今日の授業を振り返りましょう。



H: 感想を発表しましょう。

C$_1$*:* 自分たちの町を，英語で紹介することができたので，よかったです。



C$_2$*:* 英語でどう言えばいいのか聞くことができてよかったです。



指導ポイント

学習してよかったことや感想を発表することで，次時への意欲をもつことができるようにする。

Ⅵ　外国語科における学習評価

１　外国語科の学習評価の進め方について



外国語科が必修教科になるにあたって，学習評価はどのように行えばいいのでしょうか？

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校，中学校）」「第３編　単元（題材）ごとの学習評価について（事例）【案】」（令和元年１１月）をもとに説明します。



【留意点】

１　　単元の目標を作成する

○　学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等，さらに児童の実態，全単元までの学習状況を踏まえて作成する。

２　　単元の評価規準を作成する

３「指導と評価の計画」を作成する

○　１，２を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。
○　どのような評価の資料（児童の反応や作品など）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり，「努力を要する」（C）への手立て等を考えたりする。

授業を行う

○　３に沿って観点別学習状況の評価を行い，児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

４　　観点ごとに総括する

○　集まった評価の資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。

２　単元の評価規準の作成の流れについて

（１）　外国語科における「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」の設定

＜外国語科の「内容のまとまり」とは＞

小学校学習指導要領　第２章第１０節　外国語　第２　各言語の目標及び内容等　英語１　目標に示されている「五つの領域」のことを言います。

聞くこと	読むこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］	書くこと

学習指導要領においては言語「英語」の目標を五つの領域別で示しており，学年ごとの目標を示していません。

「外国語科の目標」「五つの領域別の目標」「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」等に基づき，各学校が児童の実態等に応じて学校の「学年ごとの目標」及び「五つの領域別の『学年ごとの目標』」を設定した上で，「単元ごとの評価規準」を作成することになります。



「評価規準」って，すべて学校で作成しなければならないのかしら？

「評価規準」は，「目標に向かっている子どもたちの具体的な姿」で表されます。**「外国語科の目標」「五つの領域別の目標」「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」**は，文部科学省及び国立教育政策研究所が作成しています。



（２）　外国語科における「学年ごとの目標」及び「学年ごとの評価規準」の設定

各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ，「学年ごとの目標」**「五つの領域別の『学年ごとの目標』」**を適切に定めます。

「五つの領域別の『学年ごとの目標』」とは，中学校，高校で作成し活用されてきた，**CAN-DO リスト形式による学習到達目標**のことです。これらの**「学年ごとの目標」「五つの領域別の『学年ごとの目標』」**については，文部科学省から例が示されますが，各学校で作成することになります。



五つの領域別の「学年ごとの目標」は，「五つの領域別の目標」を踏まえると，各々を資質・能力の三つの柱に分けずに，一文ずつの能力記述文で示すことが基本的な形です。一方，五つの領域別の「学年ごとの目標」に対応する「学年ごとの評価規準」は，「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」を踏まえて，三観点で記述します。

（３） 外国語科における「単元ごとの目標」及び「単元ごとの評価規準」の設定

「単元ごとの目標」は，五つの領域別の「学年ごとの目標」を踏まえて設定します。

「単元ごとの評価規準」は，「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」「学年ごとの評価規準」と同様に，「単元ごとの目標」を踏まえて設定します。

各単元で取り扱う事柄や，言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料），当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面，状況，取り扱う話題などに即して設定します。



「単元ごとの評価規準」は，採択された教科書の単元の指導計画を参考に作成するとよいのですね。

３　観点別学習状況の評価について

（１） 「知識・技能」の評価について

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか，それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているかどうかを評価する観点です。

例えば，「話すこと［やり取り］」については，本単元で学習する言語材料だけでなく既習語句や表現を使って，誕生日や好きなもの，欲しいものについて相手とやり取りをする様子を観察するなどの評価方法が考えられます。ただし，１単位時間で全児童を見取ることが現実的ではないため，学期の終わりなど，複数の単元の学習の後に，「話すこと［やり取り］」に関する**パフォーマンステスト**を実施して，評価することも考えられます。

（２） 「思考・判断・表現」の評価について

児童がコミュニケーションの目的や場面，状況などに応じて，既習語句や表現を使って，話される内容を理解したり，自分の考えや気持ちを表現したりしているかどうかを評価する観点です。

例えば，「聞くこと」については，児童がデジタル教材の音声を聞いた概要や，その内容についての指導者の質問に対する答えについて，ワークシート等に記載した内容を分析するなどの評価方法が考えられます。「話すこと［やり取り］」については，児童がバースデーカードを使って友達と既習語句や表現を使って，友達のことをよりよく知るためにやり取りしている様子を観察するなどの方法が考えられます。

（３）　「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

児童が英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組み，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けているかどうか，また，将来英語が必要な場面で自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価する観点です。



「主体的に学習に取り組む態度」って，これまでの「関心・意欲・態度」とはどう違うのかしら？

「主体的に学習に取り組む態度」は，外国語科においては，「思考・判断・表現」と一緒に見取ることが多く，また，学習活動がある程度進んだ，単元の後半の言語活動で見取ることが適切です。



児童の挙手の回数など，形式的な側面で評価するのではなく，学習過程において**自己調整**を行っている側面を捉えて評価をすることが大切です。また，本観点の評価の場面は，「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」の観点にかかわる評価の場面と同時とし，本観点のみを取り出しての評価は行いません。さらに，学習活動を通して身に付けた態度を評価するため，単元の導入時に評価したり，１単位時間の授業の冒頭で評価したりすることは適切ではありません。

単に，継続的な行動や積極的な発言等を行うなど，性格や行動面の傾向を評価するということではなく，各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして，知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりするために，**自らの学習状況を把握**し，学習の進め方について**試行錯誤**するなど，**自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうか**という意思的な側面を評価することが重要です。

詳しくは，令和元年度中に国立教育政策研究所から配付される**「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」**を参照してください。



令和元年度　福島市小学校外国語教育推進事業

資　料　作　成　委　員

所属学校名	職　名	氏　　名
福島第三小学校	教　諭	佐原　晶子
渡利小学校	教　諭	髙田　美加
南向台小学校	教　諭	井関　静香
湯野小学校	教　諭	紺野　富美子
飯野小学校	教　諭	桑野　亜紀

《事務局職員》

学校教育課長　　横　山　貴　英
主　　幹　　丹　治　秀　樹
指導係長　　齋　藤　雅　敏
主任指導主事　　渡　部　正　晴
指導主事　　亀　田　和　弘
指導教諭　　須　田　早　苗
指導主事　　車　田　敦　子
指導主事　　遠　藤　義　武
指導主事　　小　林　将　路
指導主事　　梅　津　隆　弘
指導主事　　長　正　壮　平

福島市小学校外国語教育推進事業資料
ブラッシュアップ外国語指導
令和２年２月　発行
福島市教育委員会